

授業概要

様々な発達段階で生じる様々な障害について取り上げ講義する。それぞれの障害の定義や社会的支援制度、障害の持つ意味や問題、障害の多様性、当事者や家族の問題や感じ方について講義する。障害を多様な視点から捉え、どう対応・支援していくことが必要か、ともに生きる社会をどのように作るべきか、受講者と意見を交換しながら講義する。本科目は、公認心理士カリキュラムに対応する科目である。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション, 障害者心理学の意義・目的・障害の定義
第 2 回	障害の種類
第 3 回	障害の理解と受容
第 4 回	視覚障害の心理とその支援
第 5 回	聴覚障害の心理とその支援
第 6 回	音声・言語障害の心理とその支援
第 7 回	高次脳機能障害・認知症の心理とその支援
第 8 回	知的障害の心理とその支援
第 9 回	自閉スペクトラム症の心理とその支援
第 10 回	注意欠如・多動症の心理とその支援
第 11 回	学習障害の心理とその支援
第 12 回	発達障害の評価と関連問題
第 13 回	情緒障害の心理とその支援
第 14 回	健康障害の心理とその支援
第 15 回	肢体不自由・重度・重複障害の心理とその支援
第 16 回	試験の実施

到達目標

国が定めた障害の 4 分類や各障害の概要, 心理的・社会的問題点が理解できる。
 それぞれの障害の違いを理解し, 各障害に対応した心理的支援に必要な知識を得ることができる。
 同じ障害名であっても, 程度や症状も症例によって異なり, 対応も異なることが理解できる。

履修上の注意

「心理学概論Ⅰ」「心理学概論Ⅱ」を履修済みであることが望ましい。
 スマートフォンや携帯電話, タブレット端末などはマナーモードにし, 鞆の中にしまっておくこと。
 講義の最後に, 受講していれば必ずわかる必須問題についての小テストを行う。

予習・復習

授業前日までに次回授業資料を Teams に掲載するので読んで予習をしておく。
 講義内で行われた小テストの復習をおこない, 理解し覚える。

評価方法

定期試験 50%, 受講態度 20%, 講義内での小テスト 30%にて総合的に評価する。

テキスト

教科書は特に指定しないが, 以下の本を参考にすることが望ましい。

- ・参考書： 障害者心理学 第 2 版
- ・著者名：太田信夫（監修）柿澤敏文（編）
- ・出版社名：北大路書房
- ・出版年（ISBN）：2019 年（978-4-7628-2984-0）